

漢文学Ⅰ(2)

[成績評価の方法・観点]

- (1) 75パーセント以上の出席を要求する。
- (2) 出席要件を満たす者について、定期試験の成績により評価を行う。
- (3) 定期試験では講読したテキストの範囲内において、常用漢字の書き取り、漢文の書き下し、並びに現代語による解釈等について出題する。

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)

宮崎市定『隋の煬帝』（中央公論新社）ISBN:9784122041851（授業では直接取り上げないが、関連書籍として推薦する。）

吉川幸次郎『漢文の話』（筑摩書房）ISBN:9784480090270（授業では直接取り上げないが、関連書籍として推薦する。）

前野直彬『漢文入門』（筑摩書房）ISBN:9784480097095（授業では直接取り上げないが、関連書籍として推薦する。）

(関連URL)

<http://www.library.pref.osaka.jp/site/oec/index.html>(大阪府立図書館「おおさかeコレクション」では、『龍飛御天歌（順治本）』の全文画像が閲覧できる。適宜、参照していただきたい。)

[授業外学修（予習・復習）等]

角川書店『新字源』、またはそれと同水準の漢和辞典（書籍版）を常に手元において学習すること。また、漢和辞典の附録（特に助字や句法の解説）についても通読しておくこと。

[その他（オフィスアワー等）]

受講生による講読（発表）の機会を確保するために、受入（予定）人数は20名までに制限したい（人数が超過する場合は抽籤）。

漢文の修得に王道はない。この授業を通して助字の用法、および漢文の句法について習熟し、独力で「白文」が読めるようになることを期待する。